

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	水辺の公私計画論検討小委員会		主 査 名：山田圭二郎 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：羽山 広文 主 査 名：西川 豊宏
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>設置目的</b>：公私計画論の観点から、水辺空間の所有・管理・利用等を巡る、公私の諸主体間関係、諸制度・地域的ルール、計画・マネジメント論の探究</li> <li>・ <b>活動計画</b>：<u>初年度</u>：観点整理、事例収集・調査実施、<u>2 年度</u>：収集事例の充実及び現地調査の継続、<u>3 年度</u>：事例の充実、および、水辺の公私計画論の整理と検討、<u>4 年度</u>：水辺の公私計画論の取りまとめ、書籍の執筆・刊行</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：山田圭二郎 (金沢工業大学)、幹事：岡村幸二 (建設技術研究所)、委員：青木秀史 (オリエンタルコンサルタンツ)、市川尚紀 (近畿大学)、上山肇 (法政大学)、畔柳昭雄 (日本大学)、菅原遼 (日本大学)、坪井壺太郎 (人と防災未来センター)、村川三郎 (広島大学)、飯田哲徳 (建設技術研究所)		
設置 WG (WG 名：目的)	無し		
2016 年度予算	77,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：-	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 41 回水環境シンポジウム「水辺の公私計画論：水辺の新たな計画・マネジメントに向けて 参加者数 31 名 (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 各委員による事例収集・報告、現地視察による調査の充実と情報共有 2. 民間助成・学会関連助成等申請書の作成を通じた公私計画論を巡る事例分析の観点及び方法、アウトプット等の共有 3. シンポジウムの開催による情報発信、成果の共有と議論
委員会活動の問題点 ・課題	1. 特になし

## 2016 年度 小委員会活動 自己評価

## (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当初活動計画の通り、今年度計 5 回 (2 月 23 日の本年度第 5 回小委員会を含む)、小委員会を開催した。</p> <p>本年度は、当小委員会の 4 年間の活動計画の 2 年度に当たり、各委員により、公私計画論 (公私の多様な関わり) の観点から、事例調査が行われ、その充実と情報の共有が図られた。また、小委員会の開催とは別に、横浜市都市デザイン室の協力のもと、横浜みなとみらい地区～大岡川沿川の現地視察 (9 月 16 日実施) も行われ、現場での情報共有・議論の深耕が図られた。</p> <p>また、こうした議論と並行して科研費 (基盤(C))、民間助成 (鹿島学術振興財団。建築学会より推薦を得て提出) や学会関連助成 (日本都市計画学会研究交流助成) へのアプライ書類の作成を通じて、水辺の公私計画論を巡る事例分析・整理の観点、アウトプットに関する共通認識をさらに深めることができた。</p> <p>さらに、3 月 3 日には第 41 回水環境シンポジウム「水辺の公私計画論：水辺の新たな計画・マネジメントに向けて」を開催予定であり、これまでの小委員会での事例収集や議論の成果を社会に発信するとともに、より広く社会的課題に関する意識啓発と議論の深耕を図ることが期待される。</p> <p>以上により、本年度の活動計画・目標に対してじゅうぶんな成果を上げ、次年度以降の準備を整えることができた。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。